

第 1 1 回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 平成 3 0 年 1 1 月 2 8 日 (水)

開会 1 3 時 3 0 分

閉会 1 4 時 2 5 分

2 会 場 金沢市庁舎 2 階 2 0 1 会議室

3 出席委員 (5 名)

教 育 長 野 口 弘

教 育 委 員 田 邊 俊 治

〃 早 川 芳 子

〃 岡 能 久

〃 河 野 俊 寛

4 欠席委員 (2 名)

教 育 委 員 大 島 淳 光

〃 丸 山 章 子

事務局	教育次長 (兼) 学校教育部長	高 村 政 博
	担当部長 (兼) 教育総務課長	加 藤 弘 行
	教育総務課担当課長 (兼) 課長補佐	中 西 賢 治
	担当部長 (兼) 学校職員課長	羽 場 政 彦
	学校職員課担当課長・管理主事 (兼) 課長補佐	田 村 創
	担当部長 (兼) 学校指導課長	新 村 裕 二
	学校指導課担当課長 (兼) 課長補佐	村 田 昌 人
	市立工業高校事務局長	新 出 光 昭
	生涯学習部長	鳥 倉 俊 雄
	生涯学習課長 (兼) 家庭教育振興室長	藤 木 由 里
	図書館総務課長	村 田 英 彦
	(兼) 玉川図書館長	
	(兼) 近世史料館長、城北分館長	
	教育プラザ総括施設長 (兼) 地域教育センター所長	松 本 季 之

5 案 件

議案第 2 6 号 平成 2 9 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について (教育総務課)

非 議案第 2 7 号 平成 3 0 年度金沢市議会 1 2 月定例月議会提出予定案件について (教育総務課他)

報告第 3 0 号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果 (平成 3 0 年度 7 ~ 9 月分) について (学校職員課)

報告第 3 1 号 平成 3 1 年度金沢市立工業高等学校全日制の課程第 1 学年入学者募集要項について (市立工業高等学校事務局)

そ の 他

(1) 第 4 2 回 (平成 3 0 年度) 金沢市市民大学講座の実施報告について

(2) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者6名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員に田邊委員を指名した。本日の議題について野口教育長が議案第27号を非公開にするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第26号、報告第30号、報告第31号、その他(1)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、12月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第27号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 12月の定例会議の日程：平成30年12月26日(水) 10:00～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第26号 平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について(教育総務課)

(説明の概要) 別添資料「金沢市教育委員会事務事業点検・評価報告書」をご覧いただきたい。これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づく点検評価である。先に開催した点検評価会議で教育委員各位からご指摘いただいた意見を踏まえ、加除修正、取りまとめを行った。取りまとめに当たっては、金沢大学教授の松原道男先生と本市社会教育委員で金沢美術工芸大学教授の桑村佐和子先生より、学識者としてのご意見も頂戴した。

報告書の3～10ページは、教育委員会の活動状況等についてである。教育委員会議の開催においては、運営上の工夫として、事前に内容の検討を行うために議案書等の送付を3日前までに行っている。また、一部の非公開案件を除き、会議の原則公開、会議終了後のホームページへの資料掲載など、透明性の確保と情報発信にも努めているところである。

教育委員会の活動については、学校訪問は平成29年度、小中高合わせて30校で実施した。各校の活動状況、施設・環境の把握、授業参観や校長をはじめとする教職員との意見交換などを通して、各教育現場の実情把握と教育施策の推進に努めているところである。また、教育委員会議とは別に、教育委員会事務局職員との連絡会を行い、各課所の重点事項、懸案事項等についての意見交換も行っている。

教育行政に関する他都市の視察や、教育委員会連合会の活動を通しての全国的な動向の把握、情報収集にも努めているところである。また、各種会議へのオブザーバー出席、金沢市や金沢市教育委員会事務局等が主催する各種行事等への参加などを通して、本市教育行政のさらなる推進にも努めている。

金沢市総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会で構成される会議で、10月27日と1月31日にそれぞれ記載のテーマで開催した。地域の実情に応じた教育振興を図るための施策等について、市長と意見交換を行ったところである。

それから7ページには、平成27年10月の金沢市総合教育会議で決定された本市教育行政の基本的方針である、「金沢市教育行政大綱」の五つの基本方針を記載した。8ページには、教育行政大綱の実現と本市学校教育の一層の振興を図るために、学校教育の目指すべき姿や取り組むべき施策等を明らかにした「金沢市学校教育振興基本計画」の基本理念と「めざすべき金沢の子ども像」、さらにはこの子ども像を分かりやすく覚えやすい言葉で表現するために子どもたちによって作られた「金沢子どもかがやき宣言」を記載した。

9ページには、金沢市教育行政大綱の実現と本市生涯学習のさらなる振興のために策定された

「金沢市生涯学習振興基本計画」の基本理念と、「めざす学びの姿」という五つの目標を掲げた。

以上が平成 29 年度の教育委員会の活動、金沢市教育行政大綱ならびに学校教育、生涯学習の両振興基本計画である。今後とも教育委員会議での慎重かつ十分な審議とともに、教育行政の透明化と情報発信に努め、学校の教育活動や生涯学習の実情・課題の把握を図ると同時に、教育を巡る全国的な動向も注視し、広く情報収集に努めるほか、総合教育会議の開催を通して、地域の実情に応じた適切な教育行政の推進と金沢市教育行政大綱、学校教育・生涯学習両振興基本計画の実践に努めていくとしている。

11～13 ページは、各主要事業の点検評価をまとめたものである。学校教育振興基本計画における八つの方向性に基づく 26 の事業、生涯学習振興基本計画における五つの方向性に基づく 16 の事業、および文化財保護に関する 4 の事業評価をまとめた。学校教育では 26 事業中 25 事業が「十分達成できた」として A、1 事業が「おおむね達成できた」の B である。生涯学習では 16 事業全ての事業が A、文化財保護事業では 4 事業全てが A となっている。14 ページ以降は、個別事業の個票を付けた。

この報告書について本日の会議でご承認いただければ、速やかに市議会議長宛てに提出したい。

早川委員

13 ページの「文化財の保護」の「文化財の保存・整備」はよく分かりません。次の「文化財の活用」の中に 1 項目だけ「文化財の魅力発信」とあります。これはどういう活動を指すのでしょうか。また、活用にはもっといろいろな可能性があるのでしょうか。評価は一応、A になっています。

加藤教育総務課長

文化財についての個票は 57～60 ページで、各事業の評価をまとめてあります。委員ご指摘の「文化財の魅力発信」は 60 ページにあり、事業概要は 2 に記載があるとおりです。まず、「歴史遺産の探訪」は平成 20 年度から実施している事業です。金沢に残る多くの歴史遺産について、市民にその魅力に触れていただくことが目的で、広報・啓発活動を展開しています。それから、平成 12 年度からは「歴史ふれあい講座」、平成 27 年度からは企画展を文化財保護課の方で継続して実施しています。実績は 3 に記載しているとおり、参加者も年々伸びてきていることが文化財保護の中で点検評価されています。

「文化財の保存・整備」については 57～59 ページにそれぞれ分けられています。文化財指定の推進、保存・整備、そして伝統的建造物群保存地区の保存・整備の三つに分けてそれぞれ事業化されています。それらを含めて「文化財の魅力発信」が 60 ページにまとめられています。そのような事業体系の評価の在り方だと考えています。

田邊委員

冒頭に 2 人の識者からのコメントがありましたが、これからも点検評価を続けていくに当たって特に留意しておくべき指摘はありますか。

加藤教育総務課長

松原先生からは、基本的に事業が細分化されると全体が見にくくなるということに十二分に留意した評価が必要ではないかというご指摘を頂いています。つまり、全体としての取り組みの評価という観点も必要であろうということです。単年度としての評価も大事ですが、その事業自体を継続していく中で、全体としてどのようなことが大事なのかというご指摘を頂いています。

桑村先生からは、目的を見失わずにスピード感を大切にしながら事業を展開していくことが、これからの時代はさらに必要であろうというご指摘を頂いています。そのことをどのようにして評価していくのかという難しい課題にも直面しているので、少し幅広で考えていくべきではないかというご指摘も頂いています。

野口教育長

桑村先生のご意見によれば、「B 評価となることは必ずしも悪いことでは

ない」と書かれていますし、「意欲的な目標を立てると、その達成には困難もある」という文言もあります。

田邊委員

思い切った目標設定というか、取り組みも必要ということですね。

○ 報告第 30 号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果（平成 30 年度 7～9 月分）について（学校職員課）

（説明の概要）議案書 13 ページ。前回の 4～6 月の報告に加え、7～9 月分までの集計結果および昨年度との比較を報告する。

「1 対象者数」「2 対象職種」は 4 月 30 日現在のものである。「3 時間外勤務時間の平均」は、7～9 月の時間外勤務時間の 1 カ月当たりの平均は小学校が 32 時間 48 分、中学校が 50 時間 42 分となっており、夏季休業中を含むため 4～6 月に比べて大きく減少している。昨年度同時期と比較しても小学校で 8.1%、中学校で 19.7%減少している。その結果、上半期（4～9 月）の時間外勤務時間の 1 カ月当たりの平均は小学校が 44 時間 24 分、中学校が 65 時間 24 分となり、昨年度同時期と比較して小学校で 7.0%、中学校で 13.1%減少している。また、7～9 月の「週休日・休日」の時間外勤務時間は昨年度同時期と比較して小学校で 14.2%、中学校で 31.3%減少している。小・中学校で比較すると、中学校が小学校より 14 時間余り多くなっており、その傾向は 4～9 月においても同じである。

「4 時間外勤務時間の分布」では、7～9 月の 1 カ月平均の時間外勤務時間が長時間の過重業務とされる 80 時間を超える教職員の割合は、小学校で「100 時間超」の 0.9%と「80～100 時間」の 3.1%を合計した 4.0%となっており、昨年度同時期と比較して 3.3 ポイント低くなっている。同じく中学校では 21.8%となっており、昨年度同時期と比較して 12.8 ポイント低くなっている。上半期（4～9 月）で見ると、こちらも昨年度同時期と比較して減少しているが、依然として 80 時間を超える時間外勤務の教職員の割合が、小学校で 9.9%、中学校で 35.3%という状況である。

「5 職種別の時間外勤務時間の平均」は、昨年度同時期と比較していずれも減少傾向にあるが、依然として小中学校ともに教頭が最も多くなっている。

「6 7～9 月の職種別・年齢別の集計」結果である。職種別では、小学校の指導教諭、養護教諭、事務職員、中学校の栄養教諭等を除き、昨年度同時期と比較して時間外勤務時間が減少している。年齢別では、小中学校ともに 30 歳以下の教職員の時間外勤務時間が最も多くなっている。小学校では、61 歳以上の再任用教員を除くと、年代による時間外勤務時間の差はあまりないが、中学校では年代が若くなるほど時間外勤務時間が多くなっている。また、昨年度同時期と比較すると、中学校の 61 歳以上の再任用教員を除き、小中学校ともに全ての年代で時間外勤務時間が減少している。今後も「教職員が本務に専念するための時間の確保に向けた取組方針」を確実に実施し、時間外勤務時間の減少に取り組んでいく。

野口教育長

全体的にかなり減っているという印象を受けますね。

河野委員

教頭先生の時間外が非常に多いのですが、そのことに関して今後の対策等を何か考えていれば教えてください。

羽場学校職員課長

国の来年度概算要求では、教員業務補助も含めて教頭や副校長の補助を増員していく方向に立っています。金沢市でも現在 15 名の教員業務補助が入っていますが、教頭先生の業務補助を重点的に行うことも一つ考えられるのではないかと考えています。

田邊委員

教員業務補助に入っている学校の勤務時間減の状況は分かりますか。

羽場学校職員課長

小学校 13 校、中学校 2 校の計 15 校で入っていますが、平成 29 年度と平

	成 30 年度の上半期で比べると、小学校は 13 校中 10 校で減少しており、3 校では残念ながら少し時間が増えています。中学校は 2 校とも減少しています。
田邊委員	一部増加している学校もあるようですが、減少している学校において、その減少幅を全体と対比すると激減しているのでしょうか。
羽場学校職員課長	資料 13 ページには、小学校では 4～9 月が 7.0%減少していると書いてありますが、小学校 13 校のうち、減少している 10 校についてはおおむね 10%以上減少しています。中学校については 13.1%と書いてありますが、おおむね 16～17%減っています。
田邊委員	かなり効果があるという実績にもつながりますので、どの学校にもぜひ配置できるといいと思いますし、教頭職、管理職は補助がないと回らないという実態が感じられますから、ぜひ実績を示すことで要望にもつなげていただければと思います。
羽場学校職員課長	ありがとうございます。9 月以降もこの実績をきちんと検証しながら、予算要求につなげていきたいと考えています。
河野委員	今のことに関連するのですが、3 校で増えている原因についてはどのように分析されていますか。
羽場学校職員課長	3 校に聞き取りをしたのですが、やはり若い先生が増えているため、その先生方の教材研究、あるいは慣れない仕事に対してベテランの先生が教えてあげる時間がどうして増えているとのこと。決して業務改善を図っていないわけではないということで、3 校とも同じような回答がありました。
野口教育長	今年から始まったばかりの取り組みですから、さらにこの取り組みを押し進めながら、結果的には 3 年後に時間外勤務時間が月 80 時間を超える先生がゼロになるといいと思います。しかし、基本的には定数改善をしていかないといけないのではないかと思います。田邊先生は全国教委連の会長でもあるので、いろいろな方向から教職員定数の改善について声を上げていただければと思います。

○ 報告第 31 号 平成 31 年度金沢市立工業高等学校全日制の課程第 1 学年入学者募集要項について（市立工業高等学校事務局）

（説明の概要）議案書 16 ページ。ポイントとなる部分を抜粋して報告する。一般入学の出願資格は、平成 31 年 3 月に中学校などを卒業見込みで、石川県内に居住する者または入学までに県内に居住することとなる者を対象とする。募集定員は昨年度と同数で、機械科が 80 人、電気科、電子情報科、建築科、土木科が各 40 人で、全 5 学科合計 240 人である。

一般入学願書受付期間は平成 31 年 2 月 15 日（金）から同月 20 日（水）までで、学力検査は 3 月 6 日（水）、7 日（木）の両日にわたって実施される。学科別合格者の発表は 3 月 14 日（木）正午に行う予定である。

推薦入学の募集人員は募集定員 240 名の 25%とし、昨年と同数の 5 科 60 名とする。推薦入学の出願期間は平成 31 年 1 月 31 日（木）から 2 月 4 日（月）まで。面接は 2 月 8 日（金）。合格内定は 2 月 14 日（木）に各中学校長を通じて本人に通知する。ただし、合格者の正式な発表は 3 月 14 日（木）正午に、一般入学の合格者とともに発表される。

なお、この募集要項は、石川県教育委員会が本年 5 月 30 日に発表した平成 31 年度石川県公立高等学校入学者選抜方針に基づいた出願資格、出願の手続き、入学者の選抜方針や日程などを定

めたもので、県立高等学校と同様のものとなっている。

また、新たに救済措置として、予防すべき感染症や風水震災による交通遮断などにより、一般入学の学力考査の一部または全てを欠席した場合において、追加検査を実施することとなっている。申請については、一般入学の学力考査日である平成31年3月6日（水）、7日（木）の両日とも午前9時までに、中学校長から本校市立工業高校の校長に電話で伝え、受験希望者は原則7日（木）午後4時までに、中学校長を経由して本校市立工業高校長に、追加考査の受験申請と受験できなかった理由が正当であることを証明できる書類を添付して申請する。追加検査は平成31年3月12日（火）に実施し、選抜結果通知を15日（金）に中学校長に送付する。なお、追加検査の合格者は若干名とし、一般入学の合格者に追加することとなる。

野口教育長	昨年と比べると、救済措置が新しく加わったという認識でよろしいですか。
新出市工高事務局長	全公立高等学校で加わりました。それにならって市立工業でも実施します。

○ その他（1） 第42回（平成30年度）金沢市市民大学講座の実施報告について

（説明の概要）本日配布の資料をご覧ください。概要は、今日的課題について、市民に夢や志の実現のために積極的に行動を起こしていただくため、学習の場を提供するものである。今年度のテーマは「未来への学び～地域の絆をつなぐ ひと・まちづくりをめざして～」とした。会場は、例年会場としている金沢市文化ホールが改修工事中だったため、金沢歌劇座のホールで行った。

講座は全6回行い、延べ3,653名にご参加いただいた。各回の受講者数は記載のとおりである。講師は、第1回が宝生和英さん、「能楽とアートマネージメント」を演題にスタートした。以下、堀尾正明さん、加来耕三さん、角田光代さん、吉川美代子さん、渡部潤一さんが務め、11月13日の最終日で終了した。「参考」には、平成20年度以降の参加者の推移を記載した。平成30年度は3,653人で、前年度比553人減ったが、これは会場変更によるものと考えている。何人かの受講者から「交通の便等により今年度は見合わせる」というご意見を頂いており、来年度はもとの文化ホールに戻す予定なので、また増加が見込まれるのではないかと考えている。

野野委員	42回も続いている非常に伝統のある講座なのですが、これは何回まで続けられる予定なのでしょうか。続けることにはとても意義があると思うのですが、一度見直す機会があってもいいと思います。それから、人数はどうしても増減があると思うので、あまりそこにこだわらなくてもいいと思います。ただし、もちろんお金を使っていることですから、一定数の参加は当然必要だと思います。もう一つ考えられるのは、参加者の満足度という評価があってもいいと思いました。
------	---

藤木生涯学習課長	最終日にアンケートを取っており、「継続してほしい」という参加者の割合が98%に達していますので、継続という点では希望が多いといえると思います。内容の見直しについても、「内容が良かった」という割合が96%に上り、評価としては満足していただいているのではないかと考えています。人数についてこだわり過ぎる必要はないのではないかと考えています。人数についてこだわり過ぎる必要はないのではないかと考えています。そのため、次年度は何らかの形で調査や検証をする機会を設けなければならないと考えています。
----------	--

以 上

会議録署名

教育長 _____ 署名

教育委員 _____ 署名

(田邊委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第 27 号 平成 30 年度金沢市議会 12 月定例会議会提出予定案件について(教育総務課他)

審議結果についても非公開

以 上